

獅子児の交代を「立替え」といい、三名が一緒に交代する。

いずれも獅子頭をかぶり、しまの半袖半切りの上衣にたっつけ袴をはき、赤緑の紺手甲、紺の脚半、白足袋、赤緒の麻裏草履で、腹太鼓をつけるが、ばちは持たない。古くは上衣はしま模様で、履物は草鞋を用いていた。

囃子方は太鼓二名、笛三、四名で青年団員があたり、紋付羽織姿である。

楽器・採物・用具等……獅子頭は起伏の大きい張り子で、後頭部につけている籠には多数の山鳥の羽を差してある。また、太郎と次郎の両獅子には二本の角（太郎は垂直に立ち、次郎は八字形に内側に傾いている）とコブが六個あるのに対して、雌獅子には角はなく、コブは額の上到一个あるだけである。大きさは、太郎が幅二五センチメートル、奥行二二センチメートル、高さは角を含め四四センチメートル。次郎は幅二六センチメートル、奥行一九センチメートル、高さは角を含め四四センチメートル。雌獅子は幅二七センチメートル、奥行二〇センチメートル、高さ二六センチメートルである。

この頭についている前垂れは、麻布で三つ巴が染め抜いてある。

獅子の腹太鼓は、太郎と次郎のものは直径一四センチメートル、胴長一三・五センチメートル。雌獅子のものはやや小さく直径一二・五センチメートル、胴長一二センチメートルである。囃子用の太鼓は、通常の締太鼓とやや胴長の締太鼓の二個を用いている。



西郷の獅子舞

〔第二区〕